

移動市長室

認知症カフェ

「あるがままに」地域に息づく語らいの場をめざして

通算92回目となる移動市長室を8月21日(水)に市役所において開催し、認知症カフェに関わる事業所や地域の皆さんなど9人と懇談を行いました。

「認知症カフェ」とは？

「認知症カフェ」は、認知症の人やその家族、地域の人や専門職など、年齢や所属に関わらず、だれでも気



軽に集える場所のことです。認知症について理解しあうとともに、地域社会とのつながりを深めることが期待されており、国の認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)でも設置の推進が掲げられています。

利用者がいきいきと輝ける場

今回は、小規模多機能居宅介護施設「さわやか憩いの家二日市」(憩いの家)で開催されている認知症カフェ「喫茶いこい」について懇談を行いました。

喫茶いこいは、憩いの家のスタッフ、上古賀区自治会、民生委員・児童委員、筑紫野市介護を考える家族の会、たかもり薬局など、多くの関係者が集い、関わっており、認知症の人とつながり、語り合える場づくり



を目的に、2カ月に一度開催されています。薬剤師の講話や筑紫野恋歌健康体操などのプログラムがあり、お茶を飲みながら和やかな雰囲気の中で交流が行われています。

施設の利用者の中には元教師や元菓子職人など、さまざまな経歴を持った人がおり、そのような利用者が中心となってカフェの案内看板の作成や当日の進行、お茶菓子作りなどをしています。カフェをすること



によって認知症であっても利用者の持っている力が引き出され、いきいきと輝ける場になっているそうです。地域の皆さんも認知症カフェの活動を理解し、行事などにも積極的に参加しています。「カフェに参加したことで、認知症のイメージが変わりました。みんな明るく、にこにこして、こちらまで楽しくなってきました」と参加した人は話します。

認知症ケアにかける思い

認知症になっても、住み慣れた地域で暮らし続けられるように支えていくことが使命だと、施設を運営する株式会社ウェルフェアネットの代表は語ります。



1



112 さわやか憩いの家二日市を訪問して、利用者と交流しました



まず認知症について知ってもらいたいと、市内外で認知症サポーター養成講座や認知症支援訓練をサポートするなど、カフェ以外にもさまざまな啓発活動を行っています。

「あるがままに楽しくゆったりと」を家訓にしている憩いの家。一人一人を尊重したサービスを軸に、今後認知症カフェの取り組みを通して、地域とともに、認知症の人と家族の安心を支えていきたい、と意気込みを語りました。

懇談の後には、憩いの家を訪問し、利用者とのふれあいや体操など認知症カフェで行うプログラムと一緒に楽しみました。

だれもが認知症になりうる社会で、

ラン トモプラス イン RUN伴+IN筑紫野

「認知症になっても安心して暮らしていけるまちづくり」に向けて、認知症の人と地域の人がお互いを知り、つながることを目指し、タスキをつなぎながらコースを歩きます。沿道からの応援をお願いします。

- 日時 10月20日(日)、12時30分～14時30分少雨決行
- コース グループホームさわやかテラス～介護老人保健施設 リハビリハイツ アシスト桜台
- 問い合わせ先 さわやか憩いの家二日市 ☎(918)3830

参加者からの感想

認知症になっても地域で安心して暮らせる共生のまちづくりの大切さを聞くことができました。

市長のねぎらいの言葉を聞いて涙が出そうになりました。今まで頑張ってきたよかったですと思いました。私たちの取り組みと、認知症の方がいきいきと生活されているのを市長に知っていただいで、これまでの活動が報われたように感じました。

藤田市長の一言

認知症になった人と地域をつなぐ取り組みとして、カフェという形で地域に息づく場として熱心に運営をなさっていることがよく伝わってきました。

高齢者を心から思い、住み慣れた地域でいつまでも楽しく明るく自分の人生を過ごすサポートをしてある、これは行政だけではできないことで、本当にありがたいことです。

認知症ケアの最前線である現場の生の声を聞いて、市政にも生かすべきご意見を多くいただきました。ありがとうございます。

